

言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み

小林 隆 内間 早俊
坂喜 美佳 佐藤 亜実

1. はじめに

東日本大震災によって東北の被災地では地域コミュニティが崩壊し、多くの人々が他地域へと避難した。共通語化に加え、こうした震災の影響が、被災地で話される方言の衰退を加速させることにもなるであろう。そのような中で、被災地の方言を記録し継承していくためには、どのような取り組みを行えばよいか。この点について、私たちは東北大学方言研究センター（2011・2012）の中で検討し、いくつかの取り組みを提案している。その一つが方言会話の記録作業である。

私たちが実際に被災地の方言会話を収録し、CD付きの印刷物とインターネットで公開したものが東北大学方言研究センター（2013）である。『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集－宮城県沿岸15市町』というタイトルが示すように、この方言会話集は地元の方言を後世に「伝える」ことのほかに、被災者の心理的支援（「励ます」）や支援者の方言学習（「学ぶ」）にも役立ててもらうことを意図したものである。ただ、そのねらいの中心は「伝える」こと、すなわち、被災地の方言の記録にあることは言うまでもない。

被災地の方言を会話資料のかたちで記録に残そうという私たちの取り組みは、現在も継続中である。今年度は対象地域を宮城県の気仙沼市と名取市の2地域にしぼり、より充実した会話資料を作成することをめざした。その結果は東北大学方言研究センター（2014）として公表する予定であるが、ここではそこで採用した方法論について取り上げてみたい。つまり、本稿の題名にもした、言語行動の枠組みに基づく記録という試みについて紹介したいと考える。

2. 方言会話資料の形態

2.1. 自由会話と場面設定会話

日本の方言研究において、方言会話の記録はこれまでも活発に行われてきた。作成された資料は「談話資料」とか「談話データベース」などと呼ばれることも多いが、それらについては井上文子（1999）や三井はるみ・井上文子（2007）に詳しい解説がある。

従来の方言会話資料にはいくつかの種類がある。三井・井上（2007、51頁）では、複数の観点から整理を試みており、特に「談話の種類にかかわるもの」として、「自然会話、ある程度演技でも純粹方言に近い会話、場面設定の会話、昔話の語りなど」を挙げている。このうち、最初の「自然会話」は人為的な設定や操作を行わない、いわば生のままの会話であるが、そうしたものを「自

然傍受法」などの方法で収録することは現実には難しい。また、最後の「昔話の語り」も、さしあたり特殊なものとして扱ってよいだろう。一般的には、2番目の「ある程度演技でも純粋方言に近い会話」と3番目の「場面設定の会話」が対象となるのが普通である。ただし、この分類は基準が一定でなく、わかりにくいところがあるので、ここでは、会話の場面をあらかじめ設定するかどうかによって、「自由会話」と「場面設定会話」とに区別しておくことにしよう。すなわち、次のような2種類の会話である。

「自由会話」

特にテーマを決めず、または提示したテーマをめぐって、話者たちが自由に語り合うもの。

「場面設定会話」

特定の場面を設定し、その場面にふさわしい会話を、話者同士の演技によって行うもの。

前者の「自由会話」は座談会風の会話であり、話者たちに自由に話をしてもらう形態である。テーマ（話題）を提示し、それについて語り合ってもらう場合もある。『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集』では、震災の体験を一つのテーマに据えた。このように、テーマを決める場合でも、会話自体は話者が自由に展開できるので、多少の演技めいたところはあっても自然会話に近い状態のものが収録できる。

一方、後者の「場面設定会話」は具体的な場面を設定し、擬似的に会話を行ってもらう形態である。例えば、朝、道で出会う場面を提示し、話者たちがあたかもその場にいるかのようなやりとりをしてもらう。したがって、この方式は自由会話に比べるとかなり演技性の高いものとなる。話者たちの会話能力（演技能力）が収録の成否を左右することにもなる。

このように、「自由会話」と「場面設定会話」とでは、前者がより自然会話に近いと言えよう。そのためか、これまでの会話資料は、前者の形態が後者の形態よりも明らかに多い。日本の主要な会話資料を見てみると、日本放送協会編『全国方言資料』（1966～1972）と国立国語研究所編『方言談話資料』（1978～1987）は「自由会話」「場面設定会話」の両者を収録しているが、そのうち『方言談話資料』においては「場面設定会話」の割合は明らかに少ない。また、国立国語研究所編『全国方言談話データベース 日本ふるさとことば集成』（2001～2008）では、「場面設定会話」は採られておらず、「自由会話」のみとなっている。

2.2. 言語生活の記録と場面設定会話

収録された会話が自然なものに近いことは、記録資料の条件として当然のことである。その点で、自由会話が場面設定会話に優先されることはもっともと言える。しかし、見方を変えてみると、自由会話ではとらえにくい言語現象を場面設定会話ならば把握できるという面もある。例えば、音韻やアクセントの特徴などは自由会話によっても十分観察が可能であろう。しかし、文法や表現法、言語行動といったものになると、そのバリエーションを自由会話によって拾い上げることは難しくなる。もちろん、文法の中でも形態論や統語論的な側面、あるいは意味論に関わるものでも命題寄りの文法はかなり把握ができそうである。しかし、モダリティに関連したもの、

特に対人的な文法になると、自由会話の中でそれらを十分観察し切れるかどうかは疑わしくなる。ましてや、さまざまな表現法や言語行動となると、自由会話によってそれらの様相を広くとらえることは非常に無理があると言わざるを得ない。相手に何かを頼むとか、謝罪するとか、あるいは文句を言うとか、そういう表現や言語行動が自由会話に現れる機会はほとんどないのではないかとと思われる。

自由会話という形態に足りない点があるとすれば、この点であろう。語り合いが自由会話の特徴である以上、その内容は説明的なものとなりやすく、相手に働きかけるような表現が現れにくい。座談会風の会話であるために、実際の行動の中で行われる話者同士のやりとり、すなわち言語行動についての情報が得られにくいということもある。

方言の記述は、その地域の言葉の全体に及ぶのが理想である。音韻やアクセント、語彙、文法などの言語の構造面だけでなく、表現法や言語行動など言葉の運用面についても記述が必要である。前者については各地の方言の記述がかなり進んでいるものの、後者についてはまだその方法論も確立されておらず、これからの記述の進展が期待される。実際、近年の研究動向として、言語の運用面を対象とした研究が増えつつある。それだけに、そうした研究が今後も可能となるような資料を、今のうちに蓄積しておくことが求められる。さまざまな表現法や言語行動が観察されるような会話資料の作成が期待されるのである。

また、方言の継承につながる会話の記録ということを考えてときに、その記録は日常的な言語生活を彷彿とさせるような記録でもあるべきである。日ごろの生活のさまざまな場面で行われるやりとりを記録してこそ、方言を生きたものとして後世に伝えることができる。いろいろな状況に応じた表現法や言語行動が記録された会話資料は、その点においても有効であると言えよう。

それでは、そうした日常的な言語生活が再現される会話の記録とはどのようなものか。それは、日常生活のさまざまな場面を切り取った会話資料ということになるであろう。つまり、場面設定会話である。場面設定会話はこの点において自由会話より優れていると言える。

3. 言語行動の枠組みに基づく記録

3.1. 場面設定会話における場面の設定

日常的な言語生活を記録するために場面設定会話を収録する。そのとき、場面をどのように設定するかが問題となる。場面を構成する要素としては、「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「なぜ」「いかにして」といった基本的な観点を押さえる必要がある。また、杉戸清樹（1986）が紹介するハイムズ（Hymes, D）の研究では、場面を構成する16個の要素が取り上げられており、参考になる。

現実の会話場面はそうした観点や要素が組み合わされたものであり、そのバリエーションは膨大なものとなる。できるかぎり、それらの全体を網羅した場面を設定することが理想であるが、それに応じた作業量を考えると、現実には難しいと言わざるを得ない。したがって、なんらかの視点から場面を限定していく必要が出てくる。

一つの方法として、会話の参加者の性質をもとに場面を設定するということがある。例えば、国立国語研究所編『方言談話資料』では、自由会話の部分で「老年層（同士）の会話」「老年層と若年層の会話」を収録している。これは、場面を構成する要素のうち、話者同士の関係を変数にして会話のバリエーションを見ようとしたものである。同じ資料の場面設定会話の中で、「道で知人に会う」に対して、「道で目上の知人に会う」という場面も設けているのは、同様の観点に基づくものと考えられる。このように、会話参加者の関係を軸にして場面を設定することは、話題選択や待遇的な側面などを観察することに有益であると言えよう。

しかし、より一般的に見られる方法は、言語行動の目的をもとに場面を設定するものである。国立国語研究所編『方言談話資料』では、上に示した2場面のほかに「品物を借りる」「旅行に誘う」「けんかをする」「新築の祝いを述べる」「隣家の主人の所在をたずねる」「うわさ話をする」という6つの場面を取り上げている。これらは、言語行動の目的に応じた会話のあり方を、実際の生活の中で起こり得るできごとの中で観察しようとしたものと言える。先の「道で（目上の）知人に会う」は挨拶のやりとりが期待される場面であるが、挨拶も相手との関係を結び、維持するという目的をもった言語行動と理解することができる。

挨拶についていくつかの場面を設定しているのが日本放送協会編『全国方言資料』である。ここでは、「朝、ひとの家をたずねるとき」「夕方、ひとの家を辞するとき」「道で知人にあったとき」「買物のとき」「夫の出かけるのを送るとき」「夫の帰りを迎えるとき」「不祝儀」「祝儀」の8つの場面が取り上げられている。「挨拶」といっても、いわゆる挨拶言葉の交換だけではなく、「買物のとき」の場面では品物を売ったり買ったりする際の言語行動が観察される。「不祝儀」「祝儀」の場面では定型的なやりとりのほかに、より発展的な弔いや祝いの会話も行われている。

このように言語行動の目的をもとに場面を組み立てていくやり方は、場面設定会話においては一般的な方法と言える。「場面」の構成要素の中で、「何をするのか」という点、すなわち言語行動の目的が最も中心的な要素と考えられることからすれば、妥当な方法と言えよう。

3.2. 言語行動の目的に沿った場面設定

ここまで検討して来たことを踏まえると、方言会話の記録にあたっては、自由会話だけでなく場面設定会話の収録が重要であることが見えてくる。この理解に従って、私たちは東北大学方言研究センター（2014）の会話資料を、場面設定会話の形態で作成することをめざした。特に、前節で述べたような方式、つまり、言語行動の目的に沿った場面設定を採用した。

ただし、「言語行動の目的に沿った場面設定」といっても、それを実際に行うためにはさらに考えなければいけない点がある。すなわち、(a) 言語行動の目的を網羅的に体系化するという点と、(b) その枠組みに基づいて具体的な場面設定を行うという点の2つの問題である。ひとつずつ見ていこう。

(a) 言語行動の目的の網羅的な体系化

まず、(a)の問題は、具体的な場面設定に移る前に、その指針とすべく、言語行動の目的を

網羅的に洗い出し体系化を行っておく必要があるということである。そのため、ここでは次のように全体を大きく9つのグループに分け、言語行動の目的を分類するような試案を作成した。

1. 要求表明系 (=要求を述べる)
頼む、従わせる、誘う、同意を求める、許可を求める、許しを請う、禁止する、やめさせる、注意する…
2. 要求反応系 (=要求に答える)
受け入れる、従う、同意する、許可する、許す、断る、保留する…
3. 恩恵表明系 (=恩恵を与える)
申し出る、勧める、忠告する…
4. 恩恵反応系 (=恩恵に答える)
受け入れる、断る、遠慮する、保留する…
5. 疑問表明系 (=疑問を述べる)
尋ねる、確認する、不審がる…
6. 疑問反応系 (=疑問に答える)
答える、肯定する、否定する、教える、保留する…
7. 感情表明系 (=感情を伝える)
謝る、詫げる、感謝する、恐縮する、褒める、けなす、叱る、励ます、応援する、なぐさめる、気遣う、ねぎらう、心配する、非難する、不満を言う、愚痴を言う、歎く、後悔する、反発する、自慢する、謙遜する、強がる、痛がる、暑がる、寒がる、迷う、疑う、驚く、喜ぶ、怒る、困る、がっかりする、呆れる、おもしろがる、からかう、祝う、弔う…
8. 主張表明系 (=主張を述べる)
説明する、主張する、言い張る、賛成する、反対する、反論する、言い訳する、共感する、打ち消す、修正する、追及する、打ち明ける、伝える…
9. 関係構築系 (=関係を結ぶ)
呼びかける、挨拶する、名乗る、自己紹介する、人を紹介する…

以上の案は、そもそも言語行動の目的をどのように性格付けるかという根本のところでは議論の余地がある。「系」とした9つの分類の立て方やそれらの相互関係、あるいは、個々の項目のレベルの統一などにも問題が残るものである。それらの点については今後検討すべきであるが、今回は第1次の案として上記のような体系を描き、場面設定の基準とした。

(b) 上記の枠組みに基づく具体的な場面設定

次に、上記の(b)の問題について述べたい。(b)の問題というのは、以上のような言語行動の枠組みに従って具体的な場面をどう設定するかという点である。

これについては、まず、上記のような体系を網羅する場面設定が理想である。つまり、言語行動の目的としてリストアップした項目のすべてについて、それらの実際の言語行動の様子を観察できるような場面を用意しなければいけない。これは、言語行動の枠組みに基づいた徹底的な場

面設定を行うということである。不十分ではあるものの、今回私たちが実際に行った場面設定においても、こうした方針をなるべく実現できるように努力した。すなわち、設定した場面は75場面と多く、例えば「荷物運びを頼む」場面のように、相手の反応として「受け入れる／断る」という2つの状況での会話を収録しているものを別々に数えると85場面となる。また、この「荷物運びを頼む」の例で言えば、現実の会話の中には〈頼む〉〈受け入れる〉〈断る〉といったその場面の中核をなす言語行動のほかに、〈挨拶する〉〈気遣う〉〈恐縮する〉〈感謝する〉などといった付随的な言語行動（表現）も現れる可能性があり、実際に観察可能な言語行動の種類はさらに増えることになる。

上記のような枠組みに従い、目的別の言語行動を網羅する場面設定を行うことは重要である。しかし、実際具体的に考えようとする、それらの言語行動の項目と実際の場面とをどのようにつなぐかという難しい問題が待ち構えている。つまり、それぞれの言語行動について具体的な場面を考えようとする、非常に多くの場面が想定されてしまう。例えば、〈頼む〉という言語行動を例にとれば、誰が誰に対して頼むのか、いつどこでどんな状況で頼むのか、どんな内容を頼むのか等々、〈頼む〉という目的以外のさまざまな要素を確定しないと、実際の場面設定を行えないことになってしまう。〈頼む〉といっても、それらの要素をどのように組み合わせるかによって、ありとあらゆる具体的な場面が描けてしまうわけである。

こうした問題をどうするか、今すぐ答えることは難しい。今回はとにかく言語行動の目的の点でバラエティを把握することを優先し、他の要素については統一したり、適当に扱ったりすることにした。

このうち、統一したというのは話者の条件である。つまり、高年層の男女1名ずつに話者になってもらい、基本的に近所の友人同士、ないしは夫婦という設定で会話をしてもらった。また、適当に扱ったというのは話者以外の要素であるが、場面としてより自然なものとなるように心がけた。なお、例えば〈頼む〉であれば、「荷物運びを頼む」「お金を借りる」「役員を依頼する」と3つの場面を設定している。これは、依頼内容の軽重や私的・公的の違いなどによって会話の様相が変わる可能性があると考えたからである。このように、同じ言語行動の目的に分類される場合でも、その内容面で複数の場面を設けたケースもある。

また、「9. 関係構築系」に分類した〈挨拶する〉については、いつ、どこで、誰に対して、どんな内容でといった観点から細分化し、複数の場面設定を行った。

4. 具体的な設定場面

4.1. 設定場面一覧

前節で説明した方針に基づいて具体的に設定した場面を提示する。上記の9つの「系」のうち、例えば、「要求表明系」と「要求反応系」に属するものの大部分はセットで会話されるのが普通であるので、こうしたものは組み合わせて場面を設定してある。つまり、〈頼む－受け入れる／断る〉や〈許可を求める－許可する〉などの例のように、2つを組み合わせで考えた。

I. 要求表明系－要求反応系

〈頼む－受け入れる／断る〉

1. 荷物運びを頼む－受け入れる／断る
2. お金を借りる－受け入れる／断る
3. 役員を依頼する－受け入れる

〈誘う－受け入れる／断る〉

4. 旅行へ誘う－受け入れる／断る
5. コンサートへ誘う－断る

〈許可を求める－許可する〉

6. 駐車の手続きを求める－許可する
7. 訪問の手続きを求める－許可する

〈同意を求める－同意する／同意しない〉

8. 人物を特定する－同意する／同意しない
9. 町内会費を値上げをもちかける－同意する／同意しない

〈やめさせる〉

10. 不法投棄をやめさせる

〈注意する〉

11. 車の危険を知らせる
12. 工事中であることを知らせる
13. 傘忘れを知らせる

II. 恩恵表明系－恩恵反応系

〈申し出る－受け入れる／断る〉

14. 荷物を持ってやる－受け入れる／断る
15. 野菜をおすそ分けする
16. ゴミ当番を交替してやる

〈勧める－受け入れる／断る〉

17. 食事を勧める－受け入れる／断る
18. 頭痛薬を勧める

〈忠告する〉

19. 入山を翻意させる
20. 病院の受診を促す

III. 疑問表明系－疑問反応系

〈尋ねる－答える〉

21. 傘の持ち主を尋ねる（相手の傘だった場合／相手の傘ではなかった場合）
22. 店の場所を尋ねる

〈確認する〉

23. 開始時間を確認する

IV. 感情表明系

〈謝る－許す／非難する〉

24. お茶をこぼす
25. 約束の時間に遅刻する－許す／非難する

〈褒める〉

26. 孫の大学合格を褒める

〈励ます〉

27. のど自慢への出演を励ます

〈祝う〉

28. 道端で息子の結婚を祝う
29. のど自慢での優勝を祝う

〈弔う〉

30. 道端で兄弟を弔う

〈なぐさめる〉

31. のど自慢での不合格をなぐさめる

32. 寂しくなった相手をなぐさめる

〈気遣う〉

33. 足をくじいた相手を気遣う
34. 孫が最下位になったことを気遣う

〈非難する〉

35. ゴミ出しの違反を非難する（従う場合／従わない場合）

〈ねぎらう〉

36. 退任した区長をねぎらう

〈困る〉

37. 車を出せずに困る

〈喜ぶ〉

38. 孫が一等になり喜ぶ

〈がっかりする〉

39. 孫が一等を逃しがっかりする

〈叱る〉

40. タバコをやめない夫を叱責する

〈疑う〉

41. タバコのことを隠している夫を疑う

〈迷う〉

42. 畑の処理を迷う

〈心配する〉

43. 帰宅の遅い孫を心配する

〈驚く〉

44. 花瓶を倒す

V. 主張表明系

〈説明する〉

45. 会合を中座する

〈言い張る〉

46. メガネを探す

VI. 関係構築系

〈朝の挨拶〉

47. 朝、道端で出会う

48. 朝、家族と顔を合わせる

〈昼の挨拶〉

49. 昼、道端で出会う

〈夕方の挨拶〉

50. 夕方、道端で出会う

〈夜の挨拶〉

51. 夜、道端で出会う

〈就寝の挨拶〉

52. 夜、家族より先に寝る

〈天候の挨拶〉

53. 晴れの日、道端で出会う

54. 雨の日、道端で出会う

55. 暑い日、道端で出会う

56. 寒い日、道端で出会う

〈時候の挨拶〉

57. 正月の三が日に、道端で出会う

58. 大晦日に、道端で出会う

59. お盆に、道端で出会う

〈訪問・辞去の挨拶〉

60. 友人宅を訪問する

61. 友人宅を辞去する

62. 商店に入る

63. 商店を出る

〈出発・帰着の挨拶〉

64. 友人が出かける

65. 友人が帰ってくる

66. 夫（妻）が出かける

67. 夫（妻）が帰宅する

〈食事の挨拶〉

68. 食事を始める

69. 食事を終える

〈謝礼の挨拶〉

70. 土産のお礼を言う

71. 相手の息子からの土産のお礼を言う

〈祝儀の挨拶〉

72. 息子の結婚式でお祝いを言う

73. 喜寿の会でお祝いを言う

〈不祝儀の挨拶〉

74. 兄弟の葬式でお弔いを言う

〈物売りの呼びかけ〉

75. 客に声をかける

4.2. 各場面の解説

続けて、前節の一覧に挙げた設定場面について具体的に解説したい。75場面すべてに説明を加えるが、各場面は、まず場面の名称を太字で表示し、そのあとに〈 〉に入れてその場面の中心となる目的別言語行動を示した。続けて、話者に提示した場面説明の文章をそのまま掲げた。さらに、その場面で注目すべきポイントを、⇒印のあとに記してある。

以下、解説に移る。

1. 荷物運びを頼む〈頼む－受け入れる／断る〉

Aが近所の畑でたくさん野菜をもらって帰ってきました。ところが、たくさんもらいすぎて重かったため、家までもう少しのところまで来て疲れてしまい休んでいました。ちょうどそこにBが通りかかったので、家まで一緒に運んでほしいと頼みます。そのときのやりとりを実演してみてください。

①Bが受け入れる場合

②Bが断る場合：例えば、Bは急ぎの用事がはいついて先を急がなければならないため、手伝いができないという場合。

⇒2012年度調査ではスコップを借りる際のやりとりを取り上げた。借用の依頼と受託に当たる。今回の調査では、それと比較して相手に若干の負担を強いる場面を取り上げた。〈頼む〉〈受け入れる〉〈断る〉のほかに、〈気遣う〉〈恐縮する〉〈感謝する〉などの表現が現れるかどうか確認する。出会いから入る場面であるため、〈出会いの挨拶〉に含まれる表現の出現にも注目したい。

2. お金を借りる〈頼む－受け入れる／断る〉

AとBは共通の知り合いであるCさんのお見舞いに行きます。病院に行く前に見舞いの品を買いにやってきました。品物を選んでお金を払おうと思ったところ、Aは手持ちのお金が足りないことに気付きました。そこで、一緒にいたBからお金を借りようと思います。そのときのやりとりを実演してみてください。

①Bが受け入れる場合

②Bが断る場合：例えば、Bも手持ちのお金に余裕がなく、お金を貸すことができないという場合。

⇒金銭に関係した依頼場面。上記1の場面よりは相手の負担が大きいと見ることもできる。

3. 役員を依頼する〈頼む－受け入れる〉

Aは地域の地区会長をしています。他の役員をしていた人が体調を崩して辞めることになりました。Aは後任を探していますが、なかなか引き受けてくれる人がいません。そこでAはBに役員になってもらおうとお願いに行きます。Bは事情を理解し、役員を引き受けることにします。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒公的なことに関する依頼場面。相手の家を訪ねるところから始まるため、〈訪問の挨拶〉

拶)の表現も出現すると思われる。

4. 旅行へ誘う〈誘う－受け入れる／断る〉

Aは地域の人たちと温泉旅行に行こうという話をしています。そこで、Bも誘おうということになりました。AがB宅を訪ねて温泉旅行に誘うやりとりを実演してみてください。家を訪ねる場面からやってみてください。

①Bが受け入れる場合：温泉旅行にはぜひ自分も行きたいと思うので、Aの誘いをうれしく思い、受け入れる場合。

②Bが断る場合：温泉旅行には行きたいものの、その日は別の用事が入ってしまっていて、どうしても断らざるを得ない場合。

⇒2012年度調査では物産市に誘う際のやりとりを取り上げた。今回の調査は、状況的には相手を仲間に誘い込むというニュアンスが強く出る場面である。相手の家を訪ねるところから始まるため、〈訪問の挨拶〉の表現も注目される。

5. コンサートへ誘う〈誘う－断る〉

Aは以前から行きたかった氷川きよしのコンサートのチケットを二枚もらいました。そこでBを誘って一緒に行こうと思います。その日、Bは特別の用事はないのですが、氷川きよしにあまり関心がなく、せっかくの日曜日なので家でゆっくりしたいと思います。そこでBはAの誘いを断ることにします。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒気が進まない場合の断り方を見る。

6. 駐車場の許可を求める〈許可を求める－許可する〉

Aの家でお祝い事があり親戚が遠方からやってきます。ところがAの家の前には車を停めることのできる場所がないので、隣に住むBの家の前に車を停めて良いか聞きに行きました。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒〈訪問の挨拶〉も出現が予想される。

7. 訪問の許可を求める〈許可を求める－許可する〉

Aは町内会のことでどうしてもBに相談したいことがあります。書類を見ながら話をしなければいけないので、電話ではだめです。そこで、Bの家を訪ねようと思いますが、まず電話をかけて、これから家を訪ねてもよいか確認しようと思います。そのときのやりとりを実演してみてください。AがBに電話をかけるところからやってみてください。

⇒訪問の許可を電話で求めようとするものであり、言語行動の媒体として電話という要素が加わった場面である。電話を通して〈名乗る〉表現なども注目される。

8. 人物を特定する〈同意を求める－同意する／同意しない〉

AとBが家の外で世間話をしていると、向こうにCさんのような人が立っています。Cさんを見かけるのはしばらくぶりです。Aがそれに気づきBに対して「あそこにいるのはCさんだね。」と確認します。そのときのやりとりを実演してみてください。

①そうだ、と同意する場面

②Cさんではなく、Dさんじゃないかと聞き返す場面

⇒遠くに見える知り合いに気付き、話者同士がその人物を特定する場面である。〈尋ねる〉や〈答える〉にあたるやりとりも観察される可能性がある。文法論で言う「同意要求」にあたる表現の出現が見込まれる。

9. 町内会費の値上げをもちかける〈同意を求め－同意する／同意しない〉

Aは町内会長をやっていますが、来月から町内会費をあげようと考えています。近く開かれる町内会の会合で提案するつもりですが、その前に、副会長のBにそのことを伝え、Bにも同意してほしいと頼みます。そのときのやりとりを実演してみてください。

①Bが同意する場面

②Bが同意しない場面

⇒公的なことがらについての同意の場面である。

10. 不法投棄をやめさせる〈やめさせる〉

AとBは他人同士です。Aが自分の家の山林（ないし畑）を見回っていたところ、見知らぬBがゴミを投げ捨てようとしているところを見つけました。慌ててそれを制止するやりとりを実演してみてください。

⇒公的に不適切な行為に対する制止のあり方と、そうした行為を発見され、制止を受けた側の反応の仕方を見る。〈許しを請う〉〈許す〉〈非難する〉〈不満を言う〉〈言い訳する〉〈謝る〉などの表現も現れる可能性がある。

11. 車の危険を知らせる〈注意する〉

Aが歩いていると、Bが家の前の道路に出て掃き掃除をしています。するとBの背後から大型トラックがかなりのスピードでやってきました。道幅も狭いので早く車に気づかないとBが危険です。そこで、AはBに対して車が来ていることを知らせます。このときのやりとりを実演してみてください。

⇒緊急性の高い注意場面。注意された側の反応も注目される。

12. 工事中であることを知らせる〈注意する〉

Aが家の前の道路に出て掃き掃除をしていると、向こうからBがやってきました。Bが行こうとする方向は工事中で、道に大きな穴があいています。そこで、AはBに対して、気を付けて通るように伝えます。このときのやりとりを実演してみてください。

⇒上記11の場面とは緊急性の程度に差がある。注意された側の反応も注目される。

13. 傘忘れを知らせる〈注意する〉

AとBは、公民館での催し物に参加しました。催し物も終わり、2人で帰り支度をして外に出ました。その時、AはBが朝持ってきた傘を持たずに帰ろうとしているのに気づき、先を歩いているBを呼び止めます。そのときのやりとりを実演してください。

⇒いわゆる注意喚起の表現を観察する場面。注意された側の反応も注目される。

14. 荷物を持ってやる〈申し出る－受け入れる／断る〉

Aは、道端に荷物を置いて休んでいるBに会いました。聞けば、Bは郵便局に荷物を運ぶ途中

だそうです。Aは、Bに代わりに持ってあげると申し出ます。そのときのやりとりを実演してみてください。AとBが会うところから始めてください。

①Bが申し出を受け入れる場合

②Bが申し出を断る場合：例えば、すでに郵便局に近いところまで来ている場合。

⇒2012年度の調査では、体の調子が悪い相手に代わって家の片付けをしてやることを申し出る場面を対象とした。今回の調査はそれに比べて互いに心理的負担の少ない場面と言える。断る場合には、〈遠慮する〉にあたる表現が現れる可能性がある。

15. 野菜をおすそ分けする〈申し出る－受け入れる〉

家の畑で茄子を作っているAが、りっぱな茄子ができたと言って、おすそ分けに来ました。Bはそれを受け取ります。そのときのやりとりを実演してみてください。AがBの家を訪ねるところから会話を始めてください。

⇒野菜のできがよいことを〈褒める〉表現が現れる可能性がある。〈自慢する〉〈謙遜する〉などの表現も得られるかもしれない。

16. ゴミ当番を交替してやる〈申し出る－受け入れる〉

東京にいるBの娘夫婦に赤ちゃんが生まれました。Bはあさってあたり孫の顔を見に東京に行ってきたいと思っていますが、今週は町内のゴミ当番にあたっており、どうしたものかと迷っています。Aは、それなら自分がゴミ当番を代わってやるから、東京に行ってくるようにBに勧めます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒迷っている相手への申し出場面である。〈迷う〉〈勧める〉〈感謝する〉などの表現も期待される。

17. 食事を勧める〈勧める－受け入れる／断る〉

BがAの家に遊びに来ています。食事どきになったので、Aは用意してあった食事をBに勧めます。そのときのやりとりを実演してみてください。

①Bが勧めを受け入れる場合

②Bが勧めを断る場合

⇒2012年度の調査では、仕事をしている相手に休息をとってお茶やお菓子を食べることを勧める場面を対象とした。今回の調査はそれに比べて互いに心理的負担がやや大きい場面と言える。〈遠慮する〉〈感謝する〉などの表現も現れる可能性がある。

18. 頭痛薬を勧める〈勧める－受け入れる〉

AがBを訪ねました。すると、Bは昨夜から頭が痛くてつらいと言っています。Aは自宅によく効く頭痛薬があることを思い出し、それを取ってくるから飲むように勧めます。そのときのやりとりを実演してみてください。AがBの家を訪ねるところから会話を始めてください。

⇒相手のことを気遣う勧めである。〈気遣う〉〈訪問の挨拶〉などの表現も現れそうである。

19. 入山を翻意させる〈忠告する〉

Aは、山に山菜を取りに行くというBに会いました。しかし、雨が降りそうなので、今日は山

に行かないほうが良いとAは思っています。AはBに、「雨が降りそうだから、日を改めたほうが良い」と忠告します。そのときのやりとりを実演してください。AとBが出会うところから始めてください。

⇒悪天候の中の入山を翻意させる場面である。〈勧める〉〈受け入れる〉や〈出会いの挨拶〉などの表現も期待される。

20. 病院の受診を促す〈忠告する〉

次の日、AがBの家を訪ねると、顔色の悪いBが出てきました。聞けば、昨日山に行った時に雨が降ってきて、傘もなかったため濡れて帰ってきたそうです。Bは咳こんでいて、熱もあるようです。このままだと悪化しそうなので、AはBに病院に行くように言います。昨日、Aが言った通りに山に行かなければ体調も悪くならなかったはずなので、今日は昨日よりも強く忠告し、Bに必ず病院を受診させたいと思います。そのときのやりとりを実演してください。AがBの家を訪ねるところから会話を始めてください。

⇒上記19の場面と連続している。忠告を無視したために体調を崩した相手に対して、より強い口調の忠告が出そうである。〈非難する〉〈後悔する〉や〈訪問の挨拶〉といった表現も出現する可能性がある。

21. 傘の持ち主を尋ねる〈尋ねる－答える〉

AとBは、近所の人たちと公民館での催し物に参加しました。帰り支度をしているときに、Aは傘の忘れ物に気づきました。朝、Bが持っていた傘に似ています。傘がBのものかどうか尋ねる際のやりとりを実演してください。Aが傘を見つけるところから始めてください。

①Bの傘だった場合

②Bの傘ではなかった場合

⇒〈感謝する〉〈呼びかける〉などの表現も期待される。

22. 店の場所を尋ねる〈尋ねる－答える〉

Aは近所に新しくできた食料品店に行こうと思っていますが、道がよくわかりません。ちょうどその店で買い物をしてきた帰りだというBに会ったので、食料品店がどこにあるか教えてもらうことにしました。食料品店の場所を尋ねる際のやりとりを実演してください。AがBに出会うところから始めてください。

⇒尋ねられた相手が店の場所を教えることから、〈説明する〉表現も観察される。また、〈確認する〉〈感謝する〉や〈出会いの挨拶〉などの表現も現れる可能性がある。

23. 開始時間を確認する〈確認する〉

今週末に公民館での催し物があるので、AはBと参加する予定です。しかし、Aは開始時間が何時だったか忘れてしまいました。3時からだったような気がしますが、自信がありません。AはBに、催し物の開始時間を確認します。BはAに開始時間は3時ではなく2時であることを教えます。そのときのやりとりを実演してください。

⇒時間の思い違いを正す場面でもあるので、〈否定する〉〈修正する〉などの表現も現れる

と考えられる。

24. お茶をこぼす〈謝る－許す／非難する〉

Aの家で、Bがお茶をもらって飲んでいました。そのとき、Bが手を滑らせて茶碗を落とし、座布団をよごしてしまいました。そのときのやりとりを実演してみてください。Bがまさに手を滑らせ、お茶をこぼした瞬間から会話を始めてください。

⇒2012年度調査では借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとりを収録した。こちらはその場で起こった些細なできごとの場合。お茶をこぼした瞬間の〈驚く〉も得られる可能性がある。

25. 約束の時間に遅刻する〈謝る－許す／非難する〉

A・Bに共通の友人が市内の病院に入院したとします。面会時間に合わせて二人で見舞いに行こうということで、バス停で待ち合わせをしました。ところが約束の時間になっても、Bが現れません。予定のバスは行ってしまい、面会時間にも間に合わないかもしれません。ようやくやってきたBはAに謝ります。そのときのやりとりを実演してみてください。

①AがBを許す場合：例えば、孫の幼稚園からの帰りが遅く、それを待っていなければいけなかったなど、遅刻の理由がもっともだと思われる場合。Bは律儀な人柄で、遅刻するようなことはめったにない。

②AがBを非難する場合：例えば、隣の家のCとお茶飲みをされていて、約束の時間になったことに気付かなかったなど、遅刻の理由がとても納得できない場合。Bはルーズな性格で、遅刻の常習犯である。

⇒上記24の場面に比べて多少深刻な事態。理由が正当な場合とそうでない場合とで、〈許す〉への展開と〈非難する〉への展開に分かれることが予想される。

26. 孫の大学合格を褒める〈褒める〉

Aは、Bの孫の太郎君が大学に合格したという話を耳にしました。そこで、Aは、Bに対してその話題で話しかけます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒相手の関係者（身内）に起こった好ましい事態を褒める場面。相手本人のことを褒める表現は、上記15の「野菜をおすそ分けする」や下記29の「のど自慢での優勝を祝う」などで出現する可能性がある。また、この場面では〈祝う〉の要素も現れるかもしれない。

27. のど自慢への出演を励ます〈励ます〉

AはNHKののど自慢大会の予選を勝ち抜き、今度、東京のNHKで本戦に出場します。そのことをAに話したところ、BはAを励ましてあげます。そのときのやりとりを実演してみてください。AがBにのど自慢出演の話をするところから会話を始めてください。

⇒のど自慢への出演を相手に〈打ち明ける〉表現も注目される。

28. 道端で息子の結婚を祝う〈祝う〉

Aは、Bの息子の結婚が決まったという話を耳にしました。そこで、AはBと道で出会ったとき、Bに対してその話題で話しかけます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒祝う対象が相手の息子の場合。道端での場面であり、正式な場面である下記72の「息子の結婚式でお祝いを言う」との関連が興味深い。

29. のど自慢での優勝を祝う〈祝う〉

AはNHKののど自慢大会でとうとう優勝しました。そのことをテレビで見たBは、Aに対してその話題で話しかけます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒祝う対象が相手本人の場合。〈褒める〉表現も出る可能性あり。

30. 道端で兄弟を弔う〈弔う〉

Aは、遠方にいるBの兄が亡くなったという話を耳にしました。そこで、AはBと道で出会ったとき、Bに対してその話題で話しかけます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒道端での場面であり、正式な場面である下記74の「兄弟の葬式でお弔いを言う」との関連が興味深い。

31. のど自慢での不合格をなぐさめる〈なぐさめる〉

AはNHKののど自慢大会に出ましたが、残念ながら鐘が1つしか鳴りませんでした。そのことをBに話したところ、BはAをなぐさめてあげます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒のど自慢での不合格を相手に〈打ち明ける〉表現も注目される。

32. 寂しくなった相手をなぐさめる〈なぐさめる〉

Aは、Bの娘が遠方に嫁いでしまい、寂しくなったのではないかと声をかけます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒娘が遠方に嫁いだことによる寂しさである。結婚自体はめでたいことであるので、〈強がる〉表現が出る可能性がある。

33. 足をくじいた相手を気遣う〈気遣う〉

一緒に歩いていたAが階段で足をくじいてしまいました。BはAを気遣って声をかけます。そのときのやりとりを実演してみてください。Aがまさに足をくじいた瞬間から会話を始めてください。

⇒2012年度の調査では、体調を崩している相手に体の調子を尋ねる場面を設定した。こちらは、その場での緊迫した状況のある場面。〈驚く〉〈痛がる〉などの表現にも注目。また、下記34の場面に対して、気遣う対象が相手本人の場合である。

34. 孫が最下位になったことを気遣う〈気遣う〉

AはBと一緒に小学校の運動会を見に行きました。Bの孫が徒競走に出ましたが、最下位になってしまいました。それを見ていたAがBに声をかけます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒こちらは、当事者である孫に対する気遣いと、話し相手に対する気遣いの両方が現れる場面である。

35. ゴミ出しの違反を非難する〈非難する〉

Aは、ゴミの日でないのにゴミを出そうとしているBに出くわしました。ゴミの袋を置いたままにしておくと、カラスがつついて散らかってしまいます。AはBを非難するような言葉を発します。そのときのやりとりを実演してみてください。AがBを見つけたところから会話を始めてください。

①BがAの言うことに従う場合

②BがAの言うことに従わない場合（反論）：例えば、今日から旅行に出るので、明日の朝、ゴミを出せないなどの理由。

⇒上記10の「不法投棄をやめさせる」とも関連する。こちらも規則違反の場合であるが、10の場面ほど深刻なケースではない。また、10の場面は相手が見知らぬ人であり、こちらは近所の友人である。〈忠告する〉〈不満を言う〉〈反論する〉などの表現が出る可能性もある。

36. 退任した区長をねぎらう〈ねぎらう〉

Aは、3年間の区長の任期を無事終えました。Bがその労をねぎらいます。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒2012年度調査ではその場で仕事をしている人の労をねぎらう場面を設定した。仕事内容や役目の公私・軽重による表現の違いが興味深い。

37. 車を出せずに困る〈困る〉

AとBは夫婦です。一緒に買い物に出かけるために車を出そうとすると、車庫の前に隣の家のお客の車が止まっていて進路をふさいでいるのを発見します。AとBは困ってしまい、お互いに言葉を交わします。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒車を移動するように告げようという相談のやりとりが聞かれるはずである。

38. 孫が一等になり喜ぶ〈喜ぶ〉

AとBは夫婦です。連れだって孫の小学校の運動会を見に行きました。孫は徒競走に出ました。最初、スタートで出遅れたのですが、最後は猛然と追い上げています。AとBはさかんに声援を送ります。その甲斐あってか、孫は3人を抜いてみごと一等でゴールインしました。AとBは歓声を上げます。そして、お互いに喜び合います。そうした一連のやりとりを実演してみてください。

⇒自分と相手が共有する感情の場合。孫の徒競走を見ている場面であるため、〈応援する〉表現も現れることが予想される。〈褒める〉の要素も見られるか。

39. 孫が一等を逃しがっかりする〈がっかりする〉

AとBは夫婦です。連れだって孫の小学校の運動会を見に行きました。孫は徒競走に出ました。最初、スタートはよかったのですが、最後はスピードが落ちてきました。AとBはさかんに声援を送ります。しかし、その甲斐もなく、孫は最後に3人に抜かれてしまいました。AとBは悲鳴を上げます。そして、お互いに落胆します。そうした一連のやりとりを実演してみてください。

⇒自分と相手が共有する感情の場合。上記38の場面と同様、孫の徒競走を見ている場面であるため、〈応援する〉表現も現れることが予想される。〈けなす〉の要素も入るか。

40. タバコをやめない夫を叱責する〈叱る〉

AとBは夫婦です。夫のBが、健康のために一時やめていたタバコをまた吸い始めました。夫の健康だけでなく、最近生まれた孫の健康も心配です。少し怒った感じで、妻のAは夫のBに話しかけます。そうした一連のやりとりを実演してみてください。

⇒〈禁止する〉表現も現れる可能性がある。相手が〈反論する〉〈言い訳する〉ことも考えられる。

41. タバコのことを隠している夫を疑う〈疑う〉

AとBは夫婦です。夫のBが、健康のために一時やめていたタバコをまた吸い始めたようです。Bは吸っていないと言っていますが、タバコの匂いがするので、AはBが嘘をついているのではないかと疑います。そうした一連のやりとりを実演してみてください。

⇒〈非難する〉〈反論する〉〈言い訳する〉などの表現が現れる可能性がある。

42. 畑の処理を迷う〈迷う〉

AとBは夫婦です。畑を持っていましたが、自分たちが高齢になり、畑仕事をするのがだんだん難しくなってきました。息子の世代は畑を維持するつもりはないようです。そこで、畑を手放すべきかどうか、大いに迷い、思案しています。まだやれそうな気もしますが、もう今が限界のような気もします。そうした一連のやりとりを実演してみてください。

⇒相談の場面であることから、さまざまな表現の出現が見込まれる。

43. 帰宅の遅い孫を心配する〈心配する〉

AとBは夫婦です。遊びにでかけた小学生の孫が夕方になってもなかなか帰って来ません。もう薄暗くなっており、いつもなら、とっくに家に帰っている時間です。孫のことがとても心配です。そうした一連のやりとりを実演してみてください。

⇒この場面も、さまざまな表現が現れる可能性がある。

44. 花瓶を倒す〈驚く〉

AとBは夫婦です。Aは誤って花瓶を倒してしまいました。水がテーブルの上にもみるみる広がり、床にもしたたっています。慌ててBに雑巾を持ってくるように頼みます。Aは不注意でよく花瓶を倒すので、Bはあきれ気味です。そうした一連のやりとりを実演してみてください。花瓶を倒して驚くところからやってください。

⇒花瓶を倒した瞬間から会話を始めてもらうので、〈驚く〉表現が得られるはずである。また、雑巾を要求する〈頼む〉表現や、そうした状況に対して相手が〈呆れる〉表現のほか、〈非難する〉〈叱る〉など表現も観察できるかもしれない。

45. 会合を中座する〈説明する〉

AとBは町内会の集まりに出席していて、まだ途中ですが、Aは病院の予約があって中座しなくてはなりません。そのことを近くに座っているBに言って、途中で町内会を退席します。その

ときのやりとりを実演してみてください。

⇒〈恐縮する〉〈詫びる〉などの表現も得られるかもしれない。

46. メガネを探す〈言い張る〉

AとBは夫婦です。Aはメガネをかけようと思いましたが、いつものところにありません。そこで、Bにどこかへしまったかと尋ねます。Bは心当たりがありません。しかし、AはBがどこかへやったと思っています。そこでBを追及しますが、Bは自分ではないと言い張ります。そのときのやりとりを実演してみてください。

⇒メガネのありかをめぐっての夫婦のやりとりである。〈疑う〉〈否定する〉〈追及する〉などの表現の出現も期待される。

47. 朝、道端で出会う〈朝の挨拶〉

AとBは、朝、道端で会いました。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒2012年度調査でも取り上げた場面である。冒頭のやりとりのみでなく、出会ってから別れるまでの会話全体を記録する。その点では、この場面は「挨拶」に分類したものの、いわゆる挨拶表現のみに注目したものではない。道での出会いの際に、どのようなやりとりが行われるか、全体的に把握しようとしたものである。なお、「挨拶」という点では、〈別れの挨拶〉の出現も予想される。

48. 朝、家族と顔を合わせる〈朝の挨拶〉

AとBは夫婦です。朝、起きて最初に顔を合わせたときのやりとりを実演してみてください。

⇒上記47に対して、家庭内の出会いの場面である。

49. 昼、道端で出会う〈昼の挨拶〉

AとBは、昼、道端で会いました。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒上記47と同じ。

50. 夕方、道端で出会う〈夕方の挨拶〉

AとBは、夕方、道端で会いました。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒1日の時間ごとのあいさつとしては、2012年度調査では取り上げなかった場面である。今回は、夕方と夜とを分けて設定した。

51. 夜、道端で出会う〈夜の挨拶〉

AとBは、夜、道端で会いました。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒上記47と同じ。

52. 夜、家族より先に寝る〈夜の挨拶〉

AとBは夫婦です。夜、Aはテレビを見ているBより先に寝ることにしました。Aにそのことを伝えるときのやりとりを実演してみてください。

⇒家庭内の場面である。夫婦のうちどちらが先に寝るかで表現が変わる可能性がある。

53. 晴れの日、道端で出会う〈天候の挨拶〉

春の昼間、晴天でとても天気の良い日に、道端でAとBが出会ったとき、AはBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒会話の冒頭のみでなく、出会いから別れまでの会話全体を記録する。その点、実際には多様な内容が話される可能性がある。なお、天候ごとに設定した場面であるが、そもそも天候に関する話題が出現するか否かも注目点である。

54. 雨の日、道端で出会う〈天候の挨拶〉

梅雨の昼間、かなり雨が降っている日に、道端でAとBが出会ったとき、AはBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒上記53と同じ。

55. 暑い日、道端で出会う〈天候の挨拶〉

夏の昼間、カンカン照りでとても暑い日に、道端でAとBが出会ったとき、AはBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒上記53と同じ。〈暑がる〉表現も得られるかもしれない。

56. 寒い日、道端で出会う〈天候の挨拶〉

冬の昼間、雪が降っていてとても寒い日に、道端でAとBが出会ったとき、AはBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒上記53と同じ。〈寒がる〉表現も得られるかもしれない。

57. 正月の三が日に、道端で出会う〈時候の挨拶〉

年が明けて正月の三が日に、道端でAとBが出会ったとき、AはBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒時候のあいさつについても出会いから別れまでの会話全体を記録する。正月らしいあいさつ表現の存在を確認したり、積極的に正月（大晦日・お盆）が話題化されるかどうかを見たりすることがねらいである。

58. 大晦日に、道端で出会う〈時候の挨拶〉

年末の12月31日に、道端でAとBが出会ったとき、AはBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒上記57と同じ。

59. お盆に、道端で出会う〈時候の挨拶〉

8月のお盆頃に、道端でAとBが出会ったとき、AはBにどのように声をかけますか。また、

Bはどのように返事をしますか。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。
⇒上記57と同じ。

60. 友人宅を訪問する〈訪問・辞去の挨拶〉

昼間、AがBの家を訪れるときに、Aは玄関先でBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒2012年度調査でも対象とした場面だが、今回も取り上げた。〈訪問の挨拶〉に対して、相手が〈答える〉反応についても観察できる。

61. 友人宅を辞去する〈訪問・辞去の挨拶〉

それでは用事を済ませたAがBの家から帰るとき、Bにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒〈辞去の挨拶〉に対して、相手方の〈答える〉表現も注目される。

62. 商店に入る〈訪問・辞去の挨拶〉

B宅は個人商店だとします。昼間、AがBの店に買い物で訪れるときにどのように声をかけますか。また、それに対してBはどのように返事をしますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒上記60は一般の家への訪問であるが、こちらは商店の場合である。

63. 商店を出る〈訪問・辞去の挨拶〉

それでは買い物を終えたAが店を出るとき、Bに対してどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒上記61は一般の家からの辞去であるが、こちらは商店の場合である。

64. 友人が出かける〈出発・帰着の挨拶〉

昼間、Aが道を歩いていると、普段よりも着飾っていて、どこかへ出かけるように見えるBと会いました。出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒着飾った相手に道で出会う場面であるため、行く先を〈尋ねる〉表現や相手の服装を〈褒める〉〈からかう〉などといった表現も現れる可能性がある。

65. 友人が帰ってくる〈出発・帰着の挨拶〉

夕方、再びAが道を歩いていると、先ほどとは逆の方向から、普段よりも着飾ったBが歩いてきました。そのときAはBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。再び出会ってから別れるまでのやりとりを実演してみてください。

⇒上記64と同じ。

66. 夫(妻)が出かける〈出発・帰着の挨拶〉

AとBは夫婦です。昼間、Aが出かけようとする時、AとBはどのように声を掛け合いますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒出かける人物が夫と妻の場合で表現が異なる可能性がある。

67. 夫(妻)が帰宅する〈出発・帰着の挨拶〉

AとBは夫婦です。夕方、出かけていたAが自宅へ帰った時、AとBはどのように声をかけ合

いますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒上記66と同じ。

68. 食事を始める〈食事の挨拶〉

AとBは夫婦です。AとBは、家で一緒に昼ご飯を食べようとしています。食事に手を付ける前のやりとりを実演してみてください。

⇒食事の前に何か言葉を発するかが注目される。また、食事の内容に対する〈褒める〉〈けなす〉などの表現が現れる可能性もある。

69. 食事を終える〈食事の挨拶〉

AとBは夫婦です。AとBは、家で昼ご飯を食べ終わりました。箸を置いたときのやりとりを実演してみてください。

⇒食事の後に何か言葉を発するかが注目される。また、食事の内容に対する〈褒める〉〈けなす〉などの表現が現れる可能性もある。

70. 土産のお礼を言う〈謝礼の挨拶〉

道端で、AはBに会ったとき、先日Bから旅行のお土産にお菓子をもらい、とても美味しかったことを思い出しました。それをBに伝えます。そのやりとりを実演してみてください。

⇒礼を言う相手が土産をくれた本人の場合。〈褒める〉や〈謙遜する〉表現も出現するかもしれない。

71. 相手の息子からの土産のお礼を言う〈謝礼の挨拶〉

道端で、AはBに会ったとき、先日Bの息子から旅行のお土産にお菓子をもらい、とても美味しかったことを思い出しました。それをBに伝えます。そのやりとりを実演してみてください。

⇒上記70の場面に対して、礼を言う相手が土産をくれた人の関係者（身内）の場合。

72. 息子の結婚式でお祝いを言う〈祝儀の挨拶〉

AはBの息子の結婚式に招待されました。Aは結婚式当日にBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒祝う対象が相手の関係者（身内）の場合。上記28の「道端で息子の結婚を祝う」に対して、結婚式という改まりの場での会話を把握する。

73. 喜寿の会でお祝いを言う〈祝儀の挨拶〉

AはBの喜寿を祝う会に招待されました。Aは会の当日にBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒祝う対象が相手本人の場合。上記29の「のど自慢での優勝を祝う」に対して、喜寿の会という改まりの場での会話を把握する。

74. 兄弟の葬式でお弔いを言う〈不祝儀の挨拶〉

Bの兄の葬式に弔問したAは、葬式当日にBにどのように声をかけますか。また、Bはどのように返事をしますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒上記30の「道端で兄弟を弔う」に対して、葬式という改まりの場での会話を把握する。

75. 客に声をかける〈物売りの呼び込み〉

Bは八百屋だとします。AはBの八百屋の前を通りかかりました。BがAに商品を買ってもらいたいとき、どのように声をかけますか。また、Aはどのように返事をしますか。そのやりとりを実演してみてください。

⇒上記62は入店にあたり客が先に声をかける場合だが、こちらは、店の人が先に声をかける場合である。いわゆる呼び込みにあたる表現とそれに対する客側の反応が期待される。

5. 会話例

最初にも述べたように、今年度の会話収録地域は宮城県の気仙沼市と名取市である。その成果は東北大学方言研究センター（2014）として公表の予定であるが、ここでは7つの場面について収録した会話の文字化資料を見本として紹介する。音韻や語彙・文法面のほか、言語行動の観点からも興味深い現象が観察されるが、その分析は別の機会を待ちたい。

なお、文字化の方式は基本的に国立国語研究所編『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』に従っている。詳しくは東北大学方言研究センター（2014）をご覧ください。

例1 「3. 役員を依頼する」(名取市)

話者：A 高年層女性 B 高年層男性

場面設定：AとBは近所に住む友人である。Bは地域の地区会長をしている。他の役員をしていた人が体調を崩して辞めることになった。Bは後任を探しているが、なかなか引き受けてくれる人がいない。そこでBはAに役員になってもらおうとお願いに行く。Aは事情を理解し、役員を引き受けることにする。

001 B：コンヌズワー。
こんにちは。

002 A：コンニチワ。
こんにちは。

003 B：ナンスツタノ。
何していたの。

004 A：イヤー ウジンナカ カタズケッタツチャワ。
いや 家の中 片づけていたんだよ。

言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み

005B : アー ホーカ。ンデサー チョット ワルイゲンドモサー (A ンー)
あー そうか。それでさ ちょっと 悪いけれどもさ (A うん)

オネガイシニ キタンダ。(A ナニ マダ) ンー チョーナイカイノサー
お願いしに 来たんだ。(A なに また) うん 町内会のさ

(A ンー) ヤグイン、Xツァンサ オネガイシッタッチャ。
(A うん) 役員、 Xさんに お願いしていただろう。

(A ンー ヤッテダネー) ナンダガ グアイ ワリーガラ、
(A うん やってたね) なんだか 具合 悪いから、

ヤメッガラッテンダッチャ。
やめるからって言うんだよ。

006A : アー ナンダガネー (B ンー) チョーシワルイッテノ キータヨ。
あー なんだかね (B うん) 調子悪いっていうの 聞いたよ。

007B : ンデネー イロイロ ミンナデ ソーダンシテ、ダレガ タノムガト
それでね 色々 皆で 相談して、 誰か 頼むかと

オモッタんだケッドモ アンダサ タノンダホーガ イーッテゴトニナツタカラ
思ったんだけども あんたに 頼んだ方が いいってことになったから

(A アヤヤヤヤ) ンー ダガラ ヒギウゲデモライニ キタンダッチャ。
(A あらららら) うん だから 引き受けてもらいに 来たんだよ。

008A : アヤヤヤヤ ワーダーシ チョット ムリダヨーー。
あらららら 私 ちょっと 無理だよ。

009B : ダーイジヨブダガラ。アノ ンー。
大丈夫だから。 あの うん。

010A : ホガノヒト インデナイノー。
他の人 いるんじゃないの。

011B: シ アンダワ イロンナゴトヤッテ ミンナ ゼンブ チャント ヤッデ、
うん あんたは 色んなことやって 皆 全部 ちゃんと やって、

ヤッデケデッカラ (A アイヤイヤー) アノ コイズモ ダイジョブ、
やってくれているから (A いやいや) あの こいつも 大丈夫、

デギッガラ。アド ミンナ テズダウガラッテ イッテッガラサ。
出来るから。後 皆 手伝うからって 言ってるからさ。

012A: アー ソー。 (B ー) マー シャネーネ。クチョーサンニ
あー そう。 (B うん) まあ 仕方ないね。区長さんに

イワッタンデワネー。 (B アイ) ワガリマシタ、アイ。
言われたのではね。 (B はい) わかりました、はい。

013B: アイ、イガッタイガッタ。ンデ ミンナネ、ヨロコブベーカーサ イッテ
はい、よかったよかった。それで [は] 皆ね、 喜ぶだろうからさ 行って

スグ ホーコクスッカラ。ンデ アリガド。 アド ヨロシグネ。
すぐ 報告するから。 それで [は] ありがとう。後 よろしくね。

014A: ハイハイイ。オセワニナリマス。
はいはい。 お世話になります。

例2 「10. 不法投棄をやめさせる」(気仙沼市)

話 者: A 高年層女性 B 高年層男性

場面設定: AとBは他人同士である。Aが自分の家の山林(ないし畑)を見回っていたところ、見知らぬBがゴミを投げ捨てようとしているところを見つけた。そこで、慌ててそれを制止する。

001A: コレッサ ナンダベ アンダー。ナニ ソコサ ナゲッドコ シテンノ。
これ なんなの あんた。 なに そこに 捨てよう と しているの。

002B: イヤー ミグルシードゴ ミラレテシマッタヤー。イガスイガス。
いやー 見苦しいとこ 見られてしまったな。 いいですいいです。

言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み

ゼンブ カタズゲツカラッサ。

全部 片づけるからさ。

003A：ダレー コンナトゴサ ナゲデー。

なに こんな所に 捨てて。

004B：ヤーヤーヤー。ワリゴトシタナー。

ヤーヤーヤー。悪いことしたな。

005A：ダレー テレビダノ レイゾーコ ナゲライダッテ オラエダッテ

なに テレビとか 冷蔵庫 捨てられたって 私の家だって

コマツカラネー。

困るからね。

006B：ハイ ワカリシター。ホカサ カタネデケライネー。 カタズケツガラ。

はい 分かりました。他に 話さないでくださいね。片づけるから。

007A：ソシテケライン。 ソスト オラモ タスカツカラ。

そうしてください。そうすると 私も 助かるから。

008B：ハイハイ。

はいはい。

例3 「17. 食事を勧める」(気仙沼市)

話者：A 高年層女性 B 高年層男性

場面設定：AとBは近所に住む友人である。BがAの家に遊びに来ている。食事どきになったので、Aは用意してあった食事を勧めるが、Bはそれを断る。

※以上のような場面の指定にも関わらず、以下ではAの家の食事どきにBが訪問したという設定で会話がなされている。

001A：ア Bサン キテ チョード イガッタヤー。イマ ウチデ ゴハンナノネー。

あ Bさん 来て ちょうど よかったよ。今 うちで ご飯なのね。

オトーサンモ ホラ サゲッコ ノミデツツーカラ イッショニ ゴハン
お父さんも ほら 酒 飲みたいと言うから 一緒に ご飯

タバテッテケライン。
食べて行ってください。

002B：イヤイヤ。サレカマネデ ク~~~~ クダハリセヤ。
いやいや。構わないで ×× くださいよ。

003A：ダレヤ ホンナコト イワネデ、 イガスト タマニー イッショニ。
なにさ そんなこと 言わないで、いいでしょう たまに 一緒に。

ホラ ハツガツオモ アルシー。
ほら 初ガツオも あるし。

004B：シナゲツトモネー。オラエデモ マ マゴ キデダガラッサー。ソッチサモ
そうだけれどもね。私の家でも × 孫 来ているからさ。 そっちにも

イカナクテネカラネー。
行かなくて [は] ならないからね。

005A：アラー ソスカー。 ナンダべー。(B ウン) オラエデ^[注] ガツカリスツカモー。
あら そうですか。なんだろう。(B うん) 私の家で がっかりするかも。
[注] オラエは自分の夫を指す。

006B：ンデ コノツギネー。
それで [は] この次ね。

007A：ンダ ンデー ネー アンマリー サソツテモ ワルイガラ。
そうだ [ね] それで [は] ねえ あんまり 誘っても 悪いから。

008B：ハイ。
はい。

言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み

009A: ハイ ホンデ コノツギノタノシミニ (B ハイ。コンド) トッテオッカラネ。
はい それで [は] この次の楽しみに (B はい。今度) 取っておくからね。

010B: ンジャ オトーサンサ ヨロシグ ハナシテケライン。
それでは お父さんに よろしく 話してください。

011A: ハイ ハイハイ。ンデー。
はい はいはい。それで [は] 。

例4 「38. 孫が一等になり喜ぶ」(名取市)

話者: A 高年層女性 B 高年層男性 C 調査員

場面設定: AとBは夫婦である。連れだって孫の小学校の運動会を見に来た。孫は徒競走に出た。最初、スタートで出遅れたが、最後は猛然と追いつけている。AとBはさかんに声援を送る。その甲斐あってか、孫は3人を抜いてみごと一等でゴールインした。AとBは歓声を上げる。そして、お互いに喜び合う。

001B: X ガンバレヨー。
X 頑張れよ。

002C: ヨーイ ドン。
用意 ドン。

003B: ホレ ガンバレー。
ほれ 頑張れ。

004A: ホレ アラ オラ。
ほれ あら ほら。

005B: シー ナー。
ん な。

006A: ナーンダイ。アラー ナンダナンダナンダ オソイゴド。
なんだい。 あら なんだなんだなんだ 遅いこと。

007B : ナーンダ アイツワヨー。ダメダナー、コレナー、バンツァン。オイ ヨシヨシ
なんだ あいつはよ。だめだな、これな、ばあちゃん。おい よしよし

オーオーオー ヨシヨシ オー ガンバッテキタガンバッテキタ。

おーおーおー よしよし おー 頑張ってきた頑張ってきた。

008A : アラ ガンバレガンバレガンバレ ア オーー ヌイダヌイダ。

あら 頑張れ頑張れ頑張れ あ おー 抜いた抜いた。

009B : オーー ヌイダヌイダ。オーー ヨシヨシ。オ。

おー 抜いた抜いた。おー よしよし。お。

010A : オーー ヤッパリXダ。イットーショーダ。ホレ ジーチャン。イットーヤヨー

おー やっぱりXだ。一等賞だ。ほら じいちゃん。一等だ

ホラ。アー ヨカッタ。

ほら。あー 良かった。

011B : アー バーチャン イットーダイトーダ。アー ヨカッタナー。ヨシヨシヨシ。

あー ばあちゃん 一等だ一等だ。あー 良かったな。よしよしよし。

012A : アー ヨガッタヨガッタ。拍手

あー 良かった良かった。拍手

例5 「41. タバコのことを隠している夫を疑う」(気仙沼市)

話者 : A 高年層女性 B 高年層男性

場面設定 : AとBは夫婦である。夫のBが、健康のために一時やめていたタバコをまた吸い始めたようだ。Bは吸っていないと言っているが、タバコの匂いがするので、AはBが嘘をついているのではないかと疑う。

001A : オトーサン ナンダガ タバコノニオイ スッケンド マサカ

お父さん なんだか 煙草の匂い するけれど まさか

ノンデタンデネーベネ。

吸っていたんじゃないだろうね。

言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み

002B: ダーン。ヤッテネーデバー。
なに。 やってないってば。

003A: ソスカー。
そうですか。

004B: ウーン。
うん。

005A: ナンダガ クセーダヨネ フグナンカー。
なんだか 臭いんだよね 服なんか。

006B: ンー フグサー シ シミツイダガナンダガ ソイズワ ワカンナイゲンドモ。
うん 服に × 染み付いたかどうか それは わからないけれども。

007A: ウソー。ホントニ ノンデナイスカー。
嘘。 本当に 吸ってないですか。

008B: マーサガ キノーノ ドーキューセーノ カ トギー ンー アソコデ フ
まさか 昨日の 同級生の [会の] × 時 うん あそこで ×

ウワギー ア キョ キョーモ キテツダガラ オナジモンダ。ンー ナラ
上着 あ ×× 今日も 着て行ったから 同じものだ。 うん それなら

キノーノヤツデネーガナ ンデワ。
昨日のものでないかな それでは。

009A: ソーデモ ナンデ キノーノ コンナニ ニオーベガネー。
それでも なんて 昨日のが こんなに 臭うだろうかねー。

010B: ンダツデ ノンデネーモノー。
そんなこと言ったって 吸っていないもの。

011A: ポケット サガスツカラ ドレ アツガネガ。
ポケット 探すから どれ 有るか無いか。

012B：ナーニ サガサイン。
なに 探しなさい。

013A：ホラ アッタッチャ。(B コー コナー) ホーラ アッタッチャ。
ほら あったじゃない。(B ×× ×××) ほら あったじゃない。

014B：コイズワー アー アイダ イ アノー トナリノシドガラー ア イチバーン
これは あー あれだ × あの 隣の人から あ 一番

コマッダドギ コイズー イッポンダケ ヤライッデ モラッタモンダ。
困ったとき これ 1本だけ やりなさいって 貰ったものだ。

015A：アー ホントニー。(B ウン) ホンデ ノンデナイノネ。
あー 本当に。(B うん) それで 吸ってないのね。

016B：ノンデネ ノンデネ。
吸っていない 吸っていない。

例6 「46. メガネを探す」(名取市)

話者：A 高年層女性 B 高年層男性

場面設定：AとBは夫婦である。Bはメガネをかけようと思ったが、いつものところに見当たらない。そこで、Aにどこかへしまったかと尋ねる。Aは心当たりがない。しかし、BはAがどこかへやったと思っている。そこでAを追及するが、Aは自分ではないと言い張る。

001B：ナランダ メガネ ミッケランナインダゲッドモ ドコサイッター。
なんだ 眼鏡 見つけられないんだけども どこへいったよ。

ワガネガ。
知らないか。

002A：アーラ ッシャネ、ッシャネーヨー。
あら 知らない、知らないよ。

言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み

003B: ナーダ イズモンドゴサ オイダノニ ネードー。ドゴサ
なんだ いつものところに 置いたのに ないぞ。 どこかに

ヤッタダベ。
やったんだろう。

004A: アラ ナンダイ。ジブンノモノ ジブンデ カ サガシタライーッチャ。オラ
あら なんだい。自分のもの 自分で × 探したらいいさ。 私

ツシャネヨ。
知らないよ。

005B: イヤ ンダガラ イズモ オイデッドゴサ オイデダッテユッタダッテ。
いや だから いつも 置いているところに 置いていたって言ったんだって。

ホイズ ドツガサ ヤッタダベ。
そいつ どこかに やったんだろう。

006A: ツシャネーネ。
知らないね。

例7 「62. 商店に入る」(気仙沼市)

話者: A 高年層女性 B 高年層男性

場面設定: B宅は個人商店だとする。昼間、AがBの店に買い物で訪れるときにどのように声をかけるか。また、それに対してBはどのように返事をするか。そのやりとりを上演してもらおう。

001A: ゴメンナーイ。
ごめんください。

002B: ハイハイ。
はいはい。

003A: キョー サガナ ナニ アッペネ。
今日 魚 なに あるだろうね。

004B:アー キョーネー ウン。イギノイーサンマ ハイッタ。
あー 今日ね うん。活きのいいサンマ 入った。

005A:アラ ハイェゴドー ナンドー。
あら 早いこと なんと。

006B:コドシ デツケーヨ二。
今年 大きいよ。

007A:アー ホントニー。(B ウン) アド ナニ アツペ。
あー 本当に。(B うん) あと 何 あるだろう。

008B:アードー オリヤー、シズガワノタゴー ハイッタガ。
あと ほら、 志津川のタコ 入ったかな。

009A:アラー (B ウン) ナントー。ホンデー タゴドー、サンマ モラウガラ。
あら (B うん) なんと。それで [は] タコと、 サンマ もらうから。

010B:アー ソー。
あー そう。

011A:ウン (B ウン) ナンボダガ。
うん (B うん) いくらだか。

012B:ウーン ナンボヤーテ サンマ ナンビギ。
うーん いくらかって サンマ 何匹。

013A:ンダネ ニホンズズ タベデー ヨンホン。
そうだね 2本ずつ 食べて 4本。

014B:オーキサワ?
大きさは?

015A:ダイデ。
大で。

言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み

016B: ダイデ。(A ウン) ウン。ンデー ダイワネー ヒャクサンジューエン。
大で。(A うん) うん。それで [は] 大はね 130円。

(A ハイ) アド タゴワ ド ドノグラエッサ。

(A はい) あと タコは × どのくらいさ。

017A: イッポン、アシ イッポンデ イーナー。
1本、 足 1本で いいな。

018B: アシ イッポン? (A ウン) バ ナント スコシバリダゴダー。 [笑]
足 1本? (A うん) あら なんと 少しばかりだこと。 [笑]

デ イマ シャググラムーネ (A ウン) デ
それで [は] 今 100グラム× (A うん) で

ヤッテッカラッサ。 アー コノタゴ オッギー。ンデ
やっている [=売っている] からさ。あー このタコ 大きい。 それで [は]

アワセーデーネー、ヨンヒギガー。ウート コエド
合わせてね、 4匹か。 えーと これと [合わせて]

ハッピーヤッゴジュエンダナ。
850円だな。

019A: アラ ヤスイゴド。ホンデー。
あら 安いこと。 それで [は] 。

020B: ンー ナ ンナゲッド イーヤ ハッピーヤグエンデ イーガラ。
んー × そうだけれど いいや 800円で いいから。

021A: アラ ナント (B ウン) モシャゲネーゴド イッツモイッツモ マゲライデ。
あら なんと (B うん) 申し訳ないこと いつもいつも 負けてもらって。

022B: イヤイヤイヤイヤヤヤ。マダ カッテケライ。
いやいやいやいや。 また 買ってください。

023A：ハイハイ インデ ソレデ オネガイスツカラー。
はいはい それで [は] それで お願いするから。

024B：ウン。コーリ イレッサカ。
うん。水 入れますか。

025A：ンダネ スコシ イレデモラッテ。
そうだね 少し 入れてもらって。

026B：ウン ホンデー アノー ソゴデ イマー フルイヤズ イレモノ
うん それで あの そこで 今 古いやつ 入れもの
サガシテクツカラ。
探してくるから。

027A：アリガトゴザイマスー。
ありがとうございます。

6. おわりに

本稿では方言談話資料のあり方として場面設定会話の有効性を論じ、言語行動の枠組みに基づいた会話の記録を提言した。地域の言語生活を記録し後世に伝えるためにも、言語運用面についての研究資料を蓄積するためにも、方言会話を言語行動の枠組みに従って記録することは有益である。これからの方言談話資料のあるべき姿の一つとして、ここで述べたような方法論がさらに検討されることが必要である。

今回は以上のように、方言談話資料をどのように構想するかという考え方の問題を中心に論じたために、会話の収録における具体的な方法についてはほとんど扱わなかった。しかし、場面設定会話という演技性の高い会話の収録にあたっては、自由会話以上にさまざまな条件の整備が必要であり、そのあり方が成否を分けることになる。特に、場面設定会話は話者の演技力に頼る部分が大きく、いかに自然な会話を演じてもらうかが大きな課題と言える。また、場面設定の「場面」を現実の環境にどのように近づけるかも重要であり、この点についてもいろいろな工夫がなされるべきである。こうした問題については、またあらためて論じなければならない。

冒頭でも述べたように、本稿で紹介した取り組みの具体的な成果は東北大学方言研究センター(2014)として公開する予定である。そちらについても合わせてご覧いただけるとありがたい。

文 献

- 井上文子（1999）「談話資料による方言研究」真田信治編『展望現代の方言』白帝社
- 国立国語研究所編（1978～1987）『方言談話資料』全10巻、秀英出版
- 国立国語研究所編（2001～2008）『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻、国書刊行会
- 杉戸清樹（1986）「行動の中の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学3 方言研究の問題』国書刊行会
- 東北大学方言研究センター（2011）『東日本大震災と方言』東北大学国語学研究室
- 東北大学方言研究センター（2012）『方言を救う、方言で救う－3.11被災地からの提言』ひつじ書房
- 東北大学方言研究センター（2013）『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集－宮城県沿岸15市町』東北大学国語学研究室（<http://www.sinsaihougen.jp/>センターの取り組み/伝える－励ます－学ぶ－被災地方言会話集/）
- 東北大学方言研究センター（2014）『生活を伝える被災地方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話』東北大学国語学研究室
- 日本放送協会編（1966～1972）『全国方言資料』全12巻、日本放送出版協会
- 三井はるみ・井上文子（2007）「方言データベースの作成と利用」小林隆編『シリーズ方言学4 方言学の技法』岩波書店